
交響曲 -繋がる心-

葉月 茜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

交響曲 - 繋がる心 -

【Nコード】

N9324H

【作者名】

葉月 茜

【あらすじ】

僕達の心は、どこかで繋がっている。そう信じていた……。人々は1つの魂を大切にし、人生を暮らしている。神々が作った、運命の道を歩きながら……。この物語は、世界を救うために出会う、勇者達の物語 ……。

00・プロローグ

僕達の心は

かならずどこかで繋がっている。

皆が

1つの命を大切に生活している。

皆が

1つの人生を大切に暮らしている。

神様が作った運命の道。

途切れることはないだろう。

でも、変える事は可能であろう。

世界破滅の危機

神に導かれ

勇者達は歌うだろう

世界を救うため

封印を解く交響曲を……

でも、それが本当の旅の始まりだなんて、僕達はまだ知らなかったんだ。

00ニプロローグ（後書き）

こんにちは！初めまして！葉月茜です！
初心者だからこの先も物語が下手になりそうで不安です（汗）
応援。よろしくお願いします！

00 - 序章 10年前の悲劇

10年前

夜の9時頃のことだった。
ベッドで寝ていた僕がいた。

かすかに聞えてきたのは町の皆の騒いでいる声だった。
僕は起き上がり、目をこすった。
何事かと思った。

外を見ても、この時の僕はまだ6歳だったからよく分からなかった。
外にあつた光景は、赤い物がいっぱい飛び散って地面へと落ちていく場面だった。
この赤い物は……。
僕は手首を見た。地面にある赤い物と同じ物があった。

「まさか……血？」

ささやいた次の瞬間だった。
扉の向こう側、1階で母のないている声が聞えてきたのだ。

大事にしているぬいぐるみをもって、物音なしで階段を降りて行った。
母が泣くのはめずらしいことだった。
いつも優しい母だから、めったに泣くことはない。

僕は母の泣き声がする部屋へと向かった。
扉を開けようとドアノブに手を掛けた。

「お願い。やめて」

母の声が聞えた。

少しだけあけて覗いてみると、そこにいたのは母と5つ年上の兄上だった。

兄上は剣を持って、外へ出ようとしていた。

「ですが母上！ このままだと皆が死んでしまいます！」

「……だからといって、せっかく神からもらった命を粗末にするよ
うなことは……」

「何が神だよ！ 町をこんな風にした奴なんて知ったことないよ！」

母に反発する兄上と、兄上の反発を止めようとする母。

僕はただ、ずっとその光景を見ていた。

兄上はそのうち、母の止める声も聞かずに外へと出て行ってしまっ
た。

「どうした？ こんな場所に隠れて……」

「うわっ！？」

誰かの声がいきなり後ろから聞えてきて、僕はドアをおもいっきり

前へと倒してしまった。

ドアの壊れる音にさすがに気づき、母はこっちを向いた。

「……………あなたたち……………」

「母、兄上は……………」

そう聞くと、母は黙り込んでしまった。

入り口のドアは次第に閉まり、中は電気もつけていなかったから暗闇につつまれた。

「兄上は……………生きて帰ってきますよ。さあ。この町から逃げますよ」「逃げるって……………なんですか？」

7

同じ顔。僕と双子である兄上が、母に聞いた。

母は荷物をまとめて、僕達の手をひいた。

外は雷もなっているほど深刻な状況になっている様子だった。

僕の手首にある【血】と同じものが地面のそこらじゅうに落ちていく。
町の皆の姿は無かった。

僕は不意に振り返ると、兄上の姿が見えた。

兄上はふらつきながら町の外へと出て行った。

僕は嬉しい気持ちになり、兄上の元へと駆けて行った……………。

そう。それが、運命の道とは知らずに……。

兄上の姿を見失い、仕方なく母上の元へと来る。
すると、双子の兄が後ろ歩きをしながらこつちへと向かってくる。

「兄上？」

「……！？ 探したぞ！ 急いで逃げよう！」

「でも……母上は？」

「母上は……母上のことはもう忘れる」

兄の言葉の意味が分からなかった。なぜ母上のことを忘れなきゃいけないかったのか。

それがいまだに謎になっている。

僕はそのまま、どこか違う村へと向かった。

双子の兄上は、僕をこの村に預けてから町へと戻って行った。

あの日から、僕は家族を見ていなかった。

そのまま、10年という長い月日がたった ……。

00 - 序章 10年前の悲劇（後書き）

やっぱり下手になりましたね……。

自分の実力は出し切りました！

この調子で頑張っていこうと思います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9324h/>

交響曲 -繋がる心-

2010年10月14日11時02分発行